

別  
寄稿

## 熊本地震から7年

熊本洋学校教師館「ジェーンズ邸」  
再建を記念した特別写真展を開催

同志社大学同志社史資料センター  
同志社校友会熊本県支部

### ジェーンズ邸再建

2023年9月1日、全壊した熊本洋学校教師館ジェーンズ邸が再建を果たし、再オープンされることになりました。これを記念して同志社大学同志社史資料センターと同志社校友会熊本県支部は共催で特別写真展「文化財のもつチカラ―熊本洋学校教師館（ジェーンズ邸）復興までのあゆみ―」を開催しました。

本展では、2016年熊本地震によるジェーンズ邸崩壊から、およそ6年に及ぶ復興のあゆみを写真で示しました。そこには、文化財を守るため、再建を果たすために、1つ

の目的に向かって多くの人々が協働する姿がありました。本稿ではあらためてそのあゆみを振り返り、展示内容の一部を紹介したいと思います。

### ジェーンズ邸崩壊

2016年4月14日及び16日と2度にわたり巨大地震が熊本地方を襲いました。多くの被害が生じるなかで、同志社ゆかりの建築物である熊本洋学校教師館「ジェーンズ邸」（以下、ジェーンズ邸）にも大きな被害が生じました。

14日の前震（M6.5）は漆喰壁の崩落などジェーンズ邸に深刻な損害を与えましたが、建物はまだ自立していました。しかし、16日の本震（M7.3）はジェーンズ邸を



①1回目の地震後のジェーンズ邸



②2回目の地震後のジェーンズ邸



③発足したころのジェーンズの会勉強会風景  
2013年8月31日撮影

わゆる「熊本バンド」の母校です。ここでいうバンドとはキリスト教を信仰する兄弟信徒の集団で、彼らは同志社卒業後牧師や教員として活躍しました。新島襄永眠後の社長を務めた小崎弘道や横井時雄も熊本バンドです。

完全に倒壊させてしまいました。その様子は音もなく静かであったと周辺の住民の方はおっしゃっていたそうです。ジェーンズ邸崩壊のニュースは全国で知るところとなりました。この崩壊したジェーンズ邸を守るため、行動したのは「ジェーンズの会」の人々でした。

## ジェーンズの会

ジェーンズの会は、熊本の近代化に貢献した熊本洋学校（以下、洋学校）の教師「J.ジェーンズを顕彰する会」として、熊本在住の研究者や同志社関係者らが発起人となり2010年に発足しました。洋学校といえば、開校したばかりの同志社英学校に入学してきた生徒たち、い



④最初の樹脂製ブルーシート 2016年撮影

友会熊本県支部（以下、熊本県支部）の人々でした。また、5月3日発行の熊本日日新聞に熊本大学大学院伊藤重剛教授の談として「ジェーンズ邸「再建可能」」の記事が掲載されました。この記事により再建が現実味を増してきました。シートに

この意味で、洋学校と同志社は浅からぬ縁があります。

## ジェーンズ邸の再建をめざして

ジェーンズの会は、自らも災禍にあるなかで、いち早く再建を前提とした建築部材と収蔵資料の保護のため会議を開催し、具体的な行動を開始しました。すぐさま再建を視野に入れた、倒壊した建築部材を守る活動が始まります。とりわけ雨水と湿気による水損や部材の腐食、カビの発生を抑えることが重要で、「文化財を雨から守れ」をスローガンに崩壊した部材の上に4月25日以降ブルーシートを掛け、そのシートを人力で昇降させて防水と通気性を確保していました。この活動に人海戦術で協力したのが同志社校



⑥ジェーンズ邸から救出された資料とそのクリーニングの様子



⑤雨除けテントの昇降作業の様子  
2016年12月2日撮影

よる保護活動は6月17日にウインチを利用する大型テント（30m×24m）が寄贈されたため、効率が格段に上がりました。以来、原則として週2回、テントを昇降させて通気性を確保しつつ雨露をしのぐ努力が継続されました。この作業は2017年夏に、建築部材が屋根付きのプレハブに移設されるまで続きました。

### 募金活動

建築部材と同様に重視された活動が、倒壊に巻き込まれた資料の救出でした。救出された資料は隣接する夏目

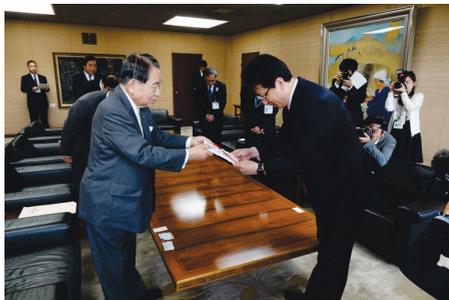
漱石第三旧居に持ち込まれ、クリーニングが実施されました。そのための総費用は1,500万円と推定されています。そこで、熊本



⑦同志社グリーンクラブのチャリティ・コンサートの様子（福岡支部）2016年11月撮影

した。そこで、熊本県支部は、この金額を目標に「熊本地震同志社ゆかりの地基金」支援金（以下「ゆかりの地」）募金活動を2016年6月から始めました。募金期間は約18年3月までの約2年間で、同志社校

友会九州ブロックをはじめとし、日本各地の校友会支部、その他米国ニューヨーク支部からも寄付が寄せられました。熊本県支部も積極的に募金活動の促進に努め、オリジナルTシャツの作成・販売、大学グリーンクラブの協力を得て熊本や博多でのチャリティ・コンサートの開催を実行し、寄付金贈呈の話があれば直接出向いて受領し、謝意を伝えました。大学だけでなく、同志社小学校の父母会である明心会は、熊本地震復興支援特別委員会を組織し、信三郎帆布製の特製チャリティー・トートバッグを製作・販売し、そ



⑧同志社校友会より熊本市長へ寄付金1,500万円を贈呈  
2018年3月16日撮影

の売上金を「ゆかりの地基金」に寄付をしました。熊本県支部の募金活動に対して、同志社関係者が知恵を絞って相互協力し、またはその範囲を超えた多くの人々の善意を支えられて、募金活動は展開されました。集まった寄付金は2018年3月16日、熊本市庁舎で大西一史熊本市長に手渡されました。

## ジェーンズ邸再建

募金終了から2年後の2020年5月より、ジェーンズ邸はこれまでの場所から約300メートル離れた熊本市電・水前寺体育館前に場所を移して再建されることになりました。2022年8月に工事が完了するまでのおよそ2年にわたる再建工事の様子は「洋学校教師館（ジェーンズ邸）修理日記」としてまとめられています（熊本県支部HP参照）。



⑨再建されたジェーンズ邸 2022年12月撮影

いるところが最もわかりやすい復元箇所です。

当初、再建がかなったジェーンズ邸の再開は2023年春ごろではないかと噂されていましたが、2022年12月に熊本市ホームページにてジェーンズ邸の再オープンの日時が2023年9月1日と公表されました。9月1日は、洋学校の授業開始日を根拠としています。

## 同志社ギャラリーで特別写真展実施

以上が展示内容のあらすじになります。同志社大学同志社社史資料センターは、ジェーンズ邸再建以降、ゆか

P参照）。鉄骨を用いた耐震補強は当然として、過去に幾度も移築され、創建時の姿から少し変わってしまっていたジェーンズ邸ですが、古写真を利用した復元などが実施され、より創建時の姿に近づきました。外壁が鼠漆喰で灰色になって





⑩講演中の猪飼隆明氏（ジェーンズの会、大阪大学名誉教授）

白ではなく、生徒らの今後の進むべき道を誓い合った宣誓書であり、信仰は同志社での学びが影響している、内面の信仰と趣意書の内容は別次元であることを指摘されたことは、新しい研究視点の提供でした。このように、ジェーンズ邸を守り受け継ぎ、語り継ぐことが熊本の近代史を語るうえで重要であり、ジェーンズ邸が県指定の文化財に指定されている由縁がここにあります。

ジェーンズ邸は不幸にも2016年熊本地震により全壊しましたが、自治体とその再建を希求する人々との協働により、復興を成し遂げました。こうした出来事は対岸の火事ではなく、誰にでも起こりうる未来です。文化

おわりに

財はその存在自体が歴史であり、実証的な存在です。その歴史や存在が崩壊した時、それを乗り越えようという意志を持つ人々は、自然と支援しようとする人々と繋がりを、互いに協働することで波及力を生み出して大きな流れを生じさせ、ついには目的を成し遂げます。ジェーンズ邸はまさに好事例で、主催者として、ジェーンズ邸の事例が今後の文化財の在り方、復興を考えるケーススタディとなることを願ってやみません。

- ①～② 黒田孔太郎氏提供
- ③～⑧ 木下智夫氏提供
- ⑨～⑫ 同志社社史資料センター撮影及び所蔵